ポラリス

札幌社会保険総合病院　院外広報誌

第10号
2008年10月

●放射線部に最新型撮影装置
3台導入される
●医療の現場から① ② ③
●部門紹介 リハビリテーション部
●こんにちは、医療連携室です No. 7
●七夕の夕べに参加して

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中心で悠久に燦然と輝き続けたいという願いが込められているのです。
題字は秦院長の直筆です。

URL http://www. zensharen. or. jp/sapb

放射線部に最新型撮影装置 ３台導入される

放射線部 技師長　薮　野　　孝

１．超高速・高精細64列マルチスライスＣＴ装置

この度当院では、世界最小0.5mmスライス幅で64スライス同時収集が出来るマルチスライスＣＴ装置を導入致しました。

この装置は、１回転0.35秒の高速撮影と64断面のデータ収集、更には世界最小0.5mmスライスが可能であり、検査時間の短縮や患者さんの息止めの時間を数段短縮し、しかも従来装置よりも高精細な画像が得られる最先端のＣＴです。

マルチスライスＣＴでは一回転で２断面撮れるものから４断面、８断面、16断面そして64断面撮れる装置があります。当然、一度に多く撮れる装置になればなる程、より速く、薄く、綺麗に撮影できる装置と言えます。この64列マルチスライスＣＴ装置によって、患者さんの負担軽減を実現し、より質の高い医療と地域医療の発展に大きく貢献できるものと確信しております。

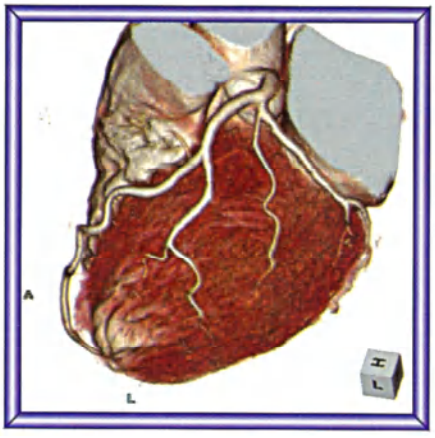
又この64列マルチスライスＣＴは従来の診断分野に加え、循環器疾患診断（特に心臓の冠動脈の撮影）への活用が大いに期待されています。当院では16列と64列の２台のマルチスライスＣＴをフル活動させ地域医療に最高の診断を提供して行くつもりです。

2. 最先端のUniversal Angiography System装置

この装置は頭部からつま先まで診断から治療までを１台でフルサポートできるオールラウンドの使用に最適な血管撮影装置です。

検出器に大視野長方形ＦＰＤ「フラット．パネル．ディテクター」（12×16インチ）を採用。透視･撮影部位にあわせて、任意にＦＰＤを回転させることができます。

全肝や両腎を一度に造影する場合などにはＦＰＤを横向きに。また、上腸間膜動脈や下肢血管など上下方向の造影には、ＦＰＤを縦向に使用。関心領域を一度の撮影でカバーすることができます。心臓領域においてもＦＰＤを横向きにすることで、干渉領域を最小限に抑えることができます。これにより、従来の大視野検出器では不可能であった臨床に即した深い角度付けが行えることになりました。



3. 多目的デジタルＸ線ＴＶシステム（ＤＲ）装置

消化管造影検査、非血管系ＩＶＲ、血管造影検査など多様な検査・手技を軽々とこなします。その心臓部ともいうべき検出器に直接変換方式検出器ＦＰＤ（フラット．パネル．ディテクター）を採用しているため画像劣化を究極まで抑えることが出来、そこから得られる診断情報は、診る人を驚嘆させます。またコンパクトなＦＰＤがアンダーテーブルチューブでの検査範囲を拡大することから、術者・被験者の被ばく低減にも貢献。低被ばくと高画質の両立に成功した装置といえます。

以上３台の装置の特徴を説明しましたが今回当院では【地域医療に最高の診断提供をするための最新型装置】を導入しました。

医療の現場から①

細菌性膣症から骨盤腹膜炎、切迫流早産へ

産婦人科 部長　島 野 敏 司

女性の病気で、最も頻度が高いのは細菌性膣症です。

特徴は帯下が多く、悪臭を感じることもあります。原因は正常の膣内には乳酸桿菌が存在しますが、この乳酸桿菌が減少し、ガードネレラ、バクテロイド属などの複数の雑菌が繁殖することにより発症します。

妊娠時の頻度は15～20%で、放置すると子宮内へ上行感染し、子宮頚管炎から子宮内感染に移行し、絨毛膜羊膜炎を引き起こし、流早産の原因になる場合があります。実際、流早産の約半分がこの細菌感染によると考えられています。

今年の日本周産期新生児学会でのアンケート調査の報告では、日本の卒後研修病院の60 %の施設で、流早産予防のためにこの細菌性膣症のスクリーニング、陽性者の治療が行れています。

日本の早産率は、双子を含め5.7%（2006年）であり、世界的にみても低いことで知られていますが、今後、さらに減少することが期待できそうです。

さて、非妊娠時においてもこの細菌性膣症は、女性を困らせています。成人女性に発熱、下腹部痛をもたらす骨盤腹膜炎の原因となるからです。骨盤腹膜炎発症の患者さんの多くにこの細菌性膣症を認めますが、こちらも、膣内から子宮、卵管を細菌が通過し、腹腔内へ上行感染したと推察します。病状は軽症から重症まで存在しますが、卵管瘤のう腫、卵巣炎を併発すると抗生剤治療抵抗性になり、開腹、切開排のうしなければならなくなります。

また、細菌性膣症は、性病の範疇には入りませんが、sexual activity の高い人によく見られるため、性器クラミジア感染症を合併している場合があります。セフェム系抗生剤で、骨盤腹膜炎の症状は軽快したと判断したにもかかわらず、クラミジア病原菌が潜伏し、慢性クラミジア感染症となります。

症状はクラミジアの病原性が弱いため退院後しばらくしてから下腹部痛が再燃し体調がすぐれないと訴えてくることです。慢性化すると生涯再燃がおこりうるため、患者さんは非常に辛い思いをすることになります。しかるに、女性の骨盤腹膜炎患者さんには、細菌性膣症と性器クラミジア感染症の有無を検索し、治療することが肝腎です。

医療の現場から②

OAB (overactive bladder＝過活動膀胱)について

泌尿器科 部長　松 田 博 幸

ＯＡＢとは「尿意切迫感を有し、通常は頻尿および夜間頻尿を伴い、切迫性尿失禁を伴うこともあれば伴わないとこもある状態」と定義される比較的新しい疾患概念であり、症状に基づき診断されます。ＯＡＢを診断するには、上記のように尿意切迫感のあることが必須です。

尿意切迫感とは「急に起こる、抑えられないような強い尿意で、我慢することが困難な愁訴であり、通常の尿意とは異なる」とされます。ＯＡＢの診断にはこれらの症状があり、しかも以下のような疾患が除外されることが必要です。

1．膀胱の異常（膀胱癌、膀胱結石、間質性膀胱炎）

2．膀胱周囲の異常（子宮内膜症など）
3．前立腺・尿道の異常（前立腺癌、尿道結石）
4．尿路性器感染症（細菌性膀胱炎、前立腺炎、尿道炎）
5．全身性疾患（糖尿病、心不全など）
6．その他（尿閉、多尿、心因性頻尿、アルコールやカフェイン摂取などの生活習慣、薬剤の副作用）

日本排尿機能学会による疫学調査によると、ＯＡＢの症状を、排尿回数が１日８回以上、かつ尿意切迫感が週１回以上とすると、その有病率は40歳以上の男女の12.4％であり、年齢と共にその頻度は上昇しました。

ＯＡＢの病因を知ることは、治療の何が有効かを見極めるために重要である。以下のように分類されていますが、複数の病因が内在していることや、病因がはっきりしないことも多いです。

1．神経因性
（1）上位中枢の障害－脳血管障害、パーキンソン病、認知症、脳腫瘍、脳外傷、脳炎など
（2）脊髄の障害－脊髄損傷、多発性硬化症、頚椎症、脊椎間狭窄症、脊髄炎など
2．非神経因性（下部尿路閉塞、加齢、骨盤底の脆弱化、特発性）

治療は行動療法（生活指導、膀胱訓練、理学療法）、薬物療法（抗コリン薬など）、電気刺激療法などがありますが、病態に合わせて適宜選択されます。詳細に興味のある方は学会から出ている診療ガイドラインなどを参照していただければ幸いです。

医療の現場から③

子供の視力、弱視について

眼科 医長　唐　尚子

ヒトは生下時から良好な視力があるわけではなく、（新生児の視力はおおよそ0.02～0.05と言われています）視力は生後、視覚刺激を受けることにより徐々に発達します。つまり視力を育てるには、ものを見るという自然の訓練が必要です。後述するような原因によって、ものを見ることができない状況におかれると視力の発達は停止し、いわゆる弱視となります。視力の発達はほぼ６歳位で完成すると言われており、この感受性期のうちに「適切な」視覚刺激（＝明瞭な像を網膜に結ぶこと）が与えられなければなりません。３歳児検診に視力検査が含まれていますが、これはこの時期に視力が育っていないことが判明した場合、早急に治療を開始し、感受性期のうちに視力を育てる必要があるためです。

弱視の病型
1．斜視弱視：先天性に斜視があると、斜視になっている眼が使われず弱視になる。
2．不同視弱視：両眼の大きな屈折度数の差（例えば片眼の遠視が強い）が原因で屈折異常の強いほうの眼が使われず弱視になる。
3．屈折異常弱視：両眼の大きな屈折異常（強い遠視、乱視など）が原因で、明瞭な像が網膜に結ばないことにより弱視になる。
4．形態覚遮断弱視：先天性の白内障、角膜混濁、眼瞼下垂などによる弱視。

治療は、１、４については手術が必要な場合もあります。２、３については、まず矯正眼鏡を装用させ、健眼を専用の眼帯で遮閉し、強制的に弱視眼を使用させると、徐々に視力が育ってきます。

弱視治療は２～６歳くらいの幼児に行いますので、御家族の理解と協力はかかせません。病院への定期受診、家庭での視力検査の練習、子供が嫌がる遮蔽治療など、視力が育つまでの御家族の苦労は非常に大きいものです。

●部門紹介●

リハビリテーション部

リハビリテーション部 技師長　田附　満

こんにちは、札幌社会保険総合病院リハビリテーション部です。

リハビリテーションという言葉は、障害を持った人が生活していく手段を得るためのアプローチを指します。日本では「リハビリ」、「リハ」の略語でも使用され、骨折などの回復段階における、身体機能回復のための理学療法や作業療法による医学的リハビリテーションを意味する用語として広く用いられています。

当院のリハビリテーション部では、筋力訓練測定器BIODEXやトレーニングマシンCYBEX、エアロバイクなど多くの治療機器を揃えるとともに、術前術後の早期リハビリテーションをリハビリ訓練室や各病棟で行っています。また、整形外科疾患、糖尿病、呼吸器疾患、心疾患、高齢者のリハビリテーションと多疾患に対して専門的な理学療法を施行しています。

リハビリテーション訓練室は、天井が高く開放感があり、歩行練習や階段昇降練習も十分ゆとりを持って行える広さがあります。スタッフは、理学療法士（PT）4名、マッサージ師2名、助手2名の8名で治療に携わっています。

理学療法は、疾病・受傷・手術後などにより機能低下を呈した患者様に対し、呼吸・循環機能の改善や起居動作・移動能力の獲得を目的とした「身体機能面のアプローチ」や実際の家庭生活上で必要な動作が効果的に行えるよう、患者様個々人の能力・家庭環境・物理的条件に応じた「日常生活面のアプローチ」や入院生活中や退院後も日常生活が継続できるよう、患者様本人もしくはご家族に対して、介助法・治療体操の指導を行っています。

こんにちは、医療連携室です　No.7

秋風を感じる肌寒い季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

いつも医療連携室をご利用いただきありがとうございます。

平成20年８月現在の診察科別利用状況（図１）と地域別医療機関利用状況（図２）を報告させていただきます。

診療科によっては予約が込み合う場合もございますが、ご希望の日時がございましたら調整させて頂いておりますのでご相談ください。

今後とも何卒よろしくお願い致します。　（土田）

図１　平成20年度診療科別利用状況

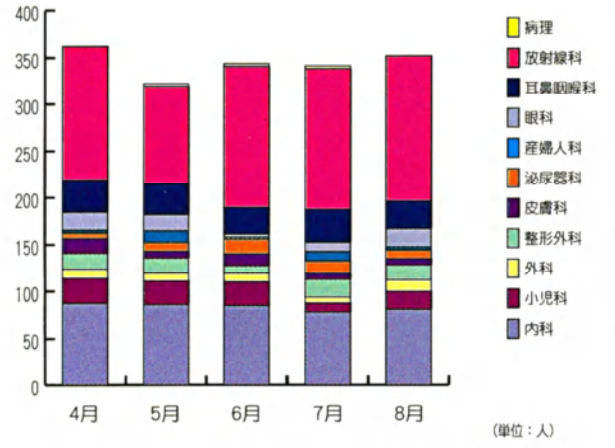
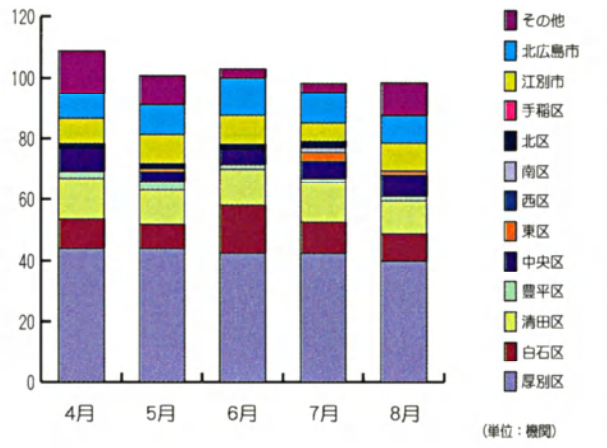


図２　平成20年度地域別医療機関利用状況



＊ 行事予定 ＊

・糖尿病教室（全２回実施）　平成20年10月16日・10月21日 ／ 平成20年11月６日・11月11日
11時～　当院２階講義室（事前に申込が必要となります）

・北辰メディカルフォーラム　平成20年11月13日（木）18時30分～

お詫び

前回７月に発行致しましたポラリス９号におきまして、内視鏡検査の事前停止薬一覧表を掲載しましたが、術前休止薬一覧の誤りでした。

また、この他に掲載されていない薬品が追加されていますので、ご不明の点がございましたらお問い合わせください。

第４回
★ 七夕の夕べに参加して ★

４階西病棟 看護師　馬 場 朝 子

８月７日午後５時から当院１階エントランスホールで“七夕の夕べ”が開催されました。

夜には天の川が見えるのでは・・・と思ってしまうくらい晴天の中、患者様やご家族、医療関係者など、用意していた椅子が足りなくなる程たくさんの方々が参加されました。

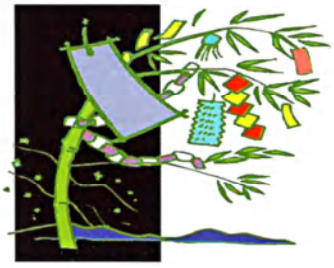
会場には竹が２本置いてあり、笹の葉には短冊がたくさんぶら下がっていました。「元気になって家に帰るよ！」、「お父さんが元気になりますように。」と患者様やご家族に対する願いが書かれたものが多く、「東京ディズニーランドに行きたい。」と書かれたものもありました。

馬場さん

●第１部　大道芸（笑団屋「真田組」）

昔懐かし紙芝居では、牧さんと人形のさとる君が登場、腹話術でお話をしていただき、みなさんの笑い声が絶えないほどの盛り上がりでした。

次に登場したのは、ヨーヨーパフォーマンス世界大会４位の Atsusi さん。みなさんはヨーヨの動きに夢中、大技がでると子供達は「すごーい！」と目を輝かせ、会場には拍手が鳴り響いていました。



●第２部　歌とピアノ演奏

岡本さんによるピアノ演奏では、おり姫とひこ星が１年に１度出会うというこの日にちなんで、愛がテーマである３曲が演奏されました。ピアノの音色によって、みなさんは穏やかな表情になっていました。

新谷さんの歌は、透き通る綺麗な声が、会場だけではなく病院全体に響く程の迫力でした。最後には七夕ではお馴染みの“たなばたさま”を、ピアノ音に合わせてみなさんで歌いました。

会場をあとにする患者様からは、「こういう行事があると嬉しい。気晴らしになるね。」という言葉を頂きました。七夕の夕べを企画し、準備をしてきた関係者のみなさんの願いが叶ったように、みなさんの願いも叶いますように☆彡

編集後記

９月になってからも暑い日が続いていましたが、だんだんと秋の香りが漂って来ました。秋といえば食欲、読書、スポーツなど人それぞれですが皆さんにとっては何の秋でしょうか？

読書といえば、先日読んだ聖路加病院の日野原名誉院長のお書きになった本に＊「ペイフォワード」いう言葉がありました。「ペイフォワード」とは自分が受けた優しさや親切をその人に返すのではなく、他の３人に返していくことで、優しさや親切の連鎖が広がっていくという意味だそうです。

心にとめておきたい素敵な言葉ですね。（相川）　＊正確には　「Pay it forward」

編集委員　相川・小林・唐・島宮・紺野・和島・新谷・北村・土田・重本・佐藤

発行責任者：秦 温信
発行：〒004-8618 札幌市厚別区厚別中央2条6丁目2番1号　札幌社会保険総合病院